人生庚申(かのえさる)(見ざる聞かざる言わざる)で楽し

1月6日は寒の入りである。これから寒さも本番となる。昨冬に比べて美唄では今のところ雪が少なく楽をさせてもらっている。冬至をすぎて半月も経つとさすがに日の入りが遅くなって，日が長くなっているのに気がつく。最も昼の短い日が冬至であることは誰でも知っているが，冬至の日没が最も早い日でないことは意外と知られていないようである。俗に冬至10日前といって12月12日頃がそれに当たり16時丁度が日没の時刻で，10日後の冬至には4分日没が遅くなる。冬至後10日すぎたら馬鹿でも気がつく，という言葉が昔からあるそうであるが，七草ガユを頂いた日の日没は，冬至10日前の16時から16分も遅くなっていて，子供でも気が付く筈である。ところが不思議としかいえないことは，日没が遅くなれば日の出は早くなるのが当然と思うのに，最も日没の早い冬至10日前の12月12日の日の出は6時56分であり，冬至には7時3分であり，28日には7時6分と最も遅い日の出の日になる。さらに不思議でしょうがないのは，この日から10日以上にわたって大つごもりが来ようと，新(あら)たまが来ようと日の出の時刻は早くも遅くもならずに変わらない。日没は2日に1分程度は必ず遅くなっているので不思議な現象と思えてならない。年輩の学校の先生がた，物しりと思われる古老がたに尋ねてみても冬至以降に日の出が遅くなることは知らない人が殆どで，日没が日増しに遅れているのに日の出が反対に遅れるなんて本当ですか？と疑いのまなざしの人達も多い。まして日の出の時間が10日以上も同時刻のままである点なぞ，日の出，日没を毎日載せている新聞を見せると初めて，この忙しいのにつまらないことを調べて喜んでいる変わり者もいるものと言わんばかりでなっとくする人達が多いなかに，一番日の短い冬至より寒さは後になって続くし，一番日差しの強い夏至より後になって暑さのきびしい夏がおとずれるのだって不思議といえば不思議なのだから。長い一年に10日位同時刻の日の出が続いてもなるようにしかならないものと，見ざる，言わざる，聞かざるで生きるのが一番ですよ，との古老の言葉には一本取られた思いが強い。

(雨田　実記)